

平成 20 年度

「児童・生徒の平和に関する図画作文コンクール」

図画の部審査講評

読谷村美術館館長 与久田健一

応募点数は、小学校 103 点、中学校 29 点、計 132 点。その中から、村長賞 1 点、教育長賞 1 点、優秀賞 5 点、入選 22 点が決まった。

審査においては次の事を基本にすえ進めていった。先ず本コンクールの主旨に合致した作品であるか、それを表現するための形や色、画面全体の構図、さらに、発達段階に応じた表現であるか、など 3 名の審査員で総合的に吟味し選んだ。

小学校高学年や中学校の作品は戦争対平和、身近な生活の中での平和な暮らしなどを表現したのが多かった。身のまわりの花や木々、昆虫や動物たちとなかよくし、いたわる心が、平和へとつながっていくんだということ表現したかったように思う。

それぞれの校種、学年共、表現方法としては発達段階に応じた作品であり、内容的にも主旨をふまえた作品が多かった。

村長賞＝中学 3 年生・知念瞳さんの作品について

涙を流した犬、壊れた陶器、祈りを捧げている女性徒、画面の右上に芽吹いている植物が描かれている。戦争は、人命、動物、文化遺産を失ってしまう、どうか 2 度とそんなことを起こさないように！という祈りが込められた作品に感じられる。色彩、形、画面構成、表現方法にすぐれた作品である。

教育長賞＝小学校 5 年生・佐久川正嗣くんの作品について

フェンスで囲まれた基地に居座っている軍用機、その隣の墓でウートートゥをしている家族、の二つが描かれている。正嗣くんは、去る大戦で亡くなった身内のことを、おばーちゃんから聞き、戦争の恐ろしさを知ったのだろうか、ところがいまだに自分の身近には戦争につながる戦闘機がある。それでいいのかな？そんな現実でいいのかな？そんな思いが伝わる作品である。

出品者のみなさんありがとう！

ご多用の中、本コンクールに取り組んでいただいた各学校の先生方、ご協力誠にありがとうございました。

審査員：石嶺傳寛、波平栄宏、与久田健一